

双塔



カトリック新潟教会 2015年 2月

No. 321

絶えず祈る聖ブラジオ

助任司祭 ナジ・エデルベルトゥス

寒い日々が続きますが皆様はいかがですか。冬の寒さを含めて耐えられない状況にいる時は神様に文句の叫びをあげてもよいと思います。神様は素直な人の声に耳を傾けてくださり、救いを願う声を見逃したりはされません。その叫びは癒しをもたらすこともあり、救いにつながるというふうにと考えると、神に会う機会も増えるのではないかと思います。叫び続けたバルティマイを黙らせようとした人々に構わず（マルコ 10・48）、御自分の御手で重い皮膚病の人に触るまで（マルコ 1・41）なされたイエス様は私達を顧みてくださると思います。

神様は色々な形や色々な方法で私達をご自分の方へ導いて下さいます。聖人でなくても神の御心に適う倫理の道へ眼を向かわせる昔話や歌もあれば、試練を体験させる事によって祈るように招いてくださる時もあります。神様と直接に対話することができないと思う時には聖人の取次によって神様に何かを求めることができます。多くの人を助けてくださり、2月に記念される一人の聖人の名前はブラジオです。

聖ブラジオ殉教者は喉飴がなく、薬や治療技術の少なかった時代に生き、癒しを求める人の友になり、沢山の人を神様へ導いた方です。アシジのフランシスコのように動物が大好きな彼は猛獣の守護聖人として知られていました。聖ブラジオの記念日のミサの中で使われたロウソクの由来は豚と関係ある話だそうです。一人の貧しい女性の飼っていた豚が狼の群れに襲われて殺されそうになった。何もできない弱い女性はブラジオ司教様が動物を愛する人であることを思い出して彼の取次を願い、助けるようにその名前を口にしました。そうすると狼の群れが豚を餌にするのをやめて逃げ去りました。

その時、ブラジオはまだ生きていましたが牢の中で苦しんでいました。感謝をするために女性は彼の事を調べてから寒くて暗い牢に絶える物をプレゼントとして考えました。暗闇の中で、また、祈りに役に立つものはやっぱりロウソクでした。彼女は早速ブラジオの所へロウソクを持って行って2番目の奇跡を報告した信者でした。

その前に、西暦316年セベシテ教区のブラジオ司教様が牢に連れて行かれる途中、一人の息子を持つ母親が奇跡を体験したそうです。司教ブラジオが通りかかる時、せめてその影だけでも子供にかかるようにしました。すると子供の喉にある魚の骨が取れて、子供は助かりました。殉教者になってからブラジオ（輝きと云う意味）司教様の評判はますます広まって、14人の助ける聖人の一人で長い間知られていました。8世紀からローマカトリック教会も彼を特別に記念する事になりました。日本の教会では2月3日のミサの中で聖ブラジオ司教殉教者の取次によって祝福を願う祈りはもう行われませんが、彼が闇の中で灯すロウソクのように、彼の絶えざる祈りの模範は記念されると思います。

神様を愛する心が出来ていれば、どんな恰好であっても、どんな状況にあっても聖ブラジオ司教様のように祈ることが出来るのではないかと思います。私達の愛と信仰を増して下さるように弟子達と共に神様に祈ればと思います（ルカ 17・5）。聖ブラジオ祈り給え！



そよかぜ便り



■神の母聖マリア（世界平和の日） ----- 1月1日（木曜日） -----



午前零時、新年を告げるアンジェラスの鐘が鳴り響く中、菊地司教様の司式でミサが執り行われた。

説教で司教様は「教会は、新年の第一日を『世界平和の日』と定めている。また、この日は、聖母マリアの祝日でもある。平和の王イエスは、聖母マリアを通じて私たちと同じ人となった。聖母マリアは救い主としての使命を全うするイエスの旅路に、一致しながら歩まれた。平和を実現することは、戦争の無い世界を生み出すことだけではない。教皇フランシスコの使徒

的勧告「福音の喜び」には、平和と正義と兄弟愛を持って福音形成を進めて行く4つの原理がのうちの一つが「時は空間に勝っている」とう原理が記されている。それは、その場限りの成功を求めて武力によって解決しようとする姿勢を戒め、対話を通じて国家間の対立を回避していく原理である。神の望まれる世界を実現することこそが、平和の実現である。教皇フランシスコは、この世界に、一人たりとも忘れられ、排除されてよい存在はいない、と強調されている。全ての人々が、尊重される世界を生み出すことこそが、平和の最終的な実現である。私たちは、聖母マリアの生き方に倣い、平和の思いを抱きながらこの一年を歩んで行きたい」と結ばれた。

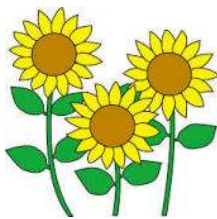


■主の公現 ----- 1月4日（日） -----

1月最初の主日は『主の公現』の祭日。

ラウール神父様は馬小屋、祭壇に献香された後、ミサを司式。「東方教会では、主の公現がクリスマスのようなもので、私たちに初めて『主の救い』が現わされた日である」とお話を始められた。

外は雨降りのせいで、聖堂内はいつもより暗い。お話は一転、「向日葵は伸び始めるころ、太陽を追いかけるように花が回るが、大きくなるとしっかりと位置を決め、動くことはないらしい。私たちも、エネルギーのある方向に顔を向け、自分の中にある光りを現してもらおうことだ」と話され「新潟教会の人が神に心を向けて力を頂き、一人一人が向日葵のようになって、この教会が向日葵畑のようになってほしい」と、“ひまわり”のような笑顔を向けられと、暗かった聖堂内が、一瞬、明るくなったような気がした。



■キリスト教一致祈祷週間 ----- 1月18日、20日、22日、24日 -----

「イエスは『水を飲ませてください』と言われた」（ヨハネ4・7）をテーマに開催された今年のキリスト教一致祈祷週間は、18日（日）の中心集会（日本キリスト教団新潟教会）を皮切りに、20日（火）（カトリック青山教会）、22日（木）（日本キリスト教団新潟信濃町教会）、24日（土）（カトリック亀田教会）で開催された。

～～ 今更聞けない素朴な疑問 ～～

『聖書朗読の後、侍者が「神に感謝」と言いますが、「神に感謝」と
 応える人と何も言わない人がいます。どちらが正しいのですか？』

【お応えします！】

朗読聖書の緒言 125 番では、朗読の終わりに朗読者は「神の言葉」と呼びかけ、
 一同は「神に感謝」と答えるとされています。日本では、朗読に立ち会う奉仕者が
 いれば静かに「神に感謝」と唱え、会衆は直ちに沈黙に入る。と指導されています。

《2015年 2月の聖書クラス・信仰講座のご案内》

曜日	時間	内容	担当司祭
月曜日(不定期)	午前10:00～	キリスト教のQ&A	三崎神父
水曜日(毎週)	午前10:00～	旧約・新約聖書から学ぶ	ラウール神父
木曜日(毎週)	午後19:30～	キリスト教入門	ラウール神父
第2土曜日	午前10:00～	第二バチカン公会議の学び	ラウール神父

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。

